国際言語文化研究所主催 国際シンポジウム
Puerto Rico–Japan Hip Hop Session

辺境ラップに耳をかせ！

Listen to the vernacular voices of the frontier rappers!

共催：人間文化研究機構　グローバル地域研究推進事業
「東ユーラシア研究プロジェクト」国立民族学博物館拠点

12月13日（金）14:40-17:50

立命館大学衣笠キャンパス 以学館 101
言語：日本語、英語（通訳なし）、スペイン語

司会：安保寛尚（立命館大学）

趣旨：辺境ラップは何を語っているのか？NYのアフリカ系アメリカ人が生み出した抵抗文化としてのヒップホップは、グローバル化によって拡散し、世界各地でローカルな文化と融合しながら独自の展開を見せている。本シンポジウムでは、プエルトリコのヒップホップについて、この島出身の伝説的ラッパーと研究者を招いて議論する。米国の自治連合区という地位にあるプエルトリコのラッパーたちは、スペイン語ラップやカリブ・ミュージックを手段に何を訴えてきたのだろうか。日本のラッパー、ヒップホップ研究者とのインタラクティブな討論・共演も行って、多様な視点からこのグローカルでヴァナキュラーな文化実践を考察する。

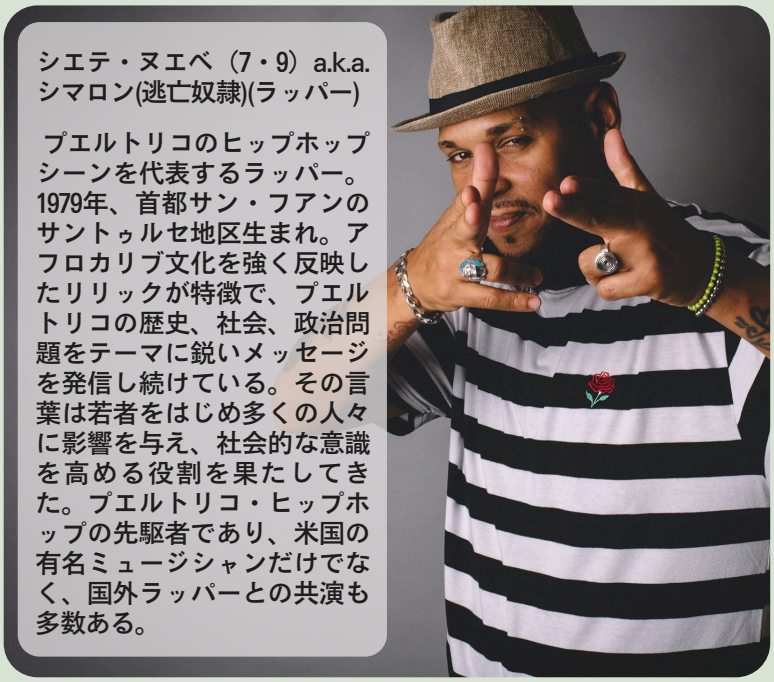
プログラム

第一部
14:40 – 14:50　趣旨説明・登壇者紹介（安保）
14:50 – 15:10　「辺境ラップとは」（島村）
15:10 – 15:40　「ボリクア・ヒップホップの今 –実践者たちの証言と貢献–」（村本）
15:40 – 16:10　「人生を変え、救ったヒップホップ文化」（シエテ・ヌエベ）

第二部
16:20 – 16:50　「奇妙で（しかも混乱した）プエルトリコのヒップホップの始まり」（アセベド）
16:50 – 17:10　コメントと日本のヒップホップとの比較（ダースレイダー × ハンガー）
17:10 – 17:30　合同パフォーマンス（シエテ・ヌエベ × ダースレイダー × ハンガー）
17:30 – 17:50　全体討論・質疑応答

島村一平（国立民族学博物館）

1969年愛媛県生まれ、兵庫県西宮市育ち。 文化人類学・モンゴル研究専攻。博士（文学）。大学を卒業後、ドキュメンタリー番組制作会社に就職。取材で訪れたモンゴルに魅了され退社、モンゴルへ留学。モンゴル国立大学大学院修士課程修了。総合研究大学院大学博士後期課程単位取得退学。滋賀県立大学人間文化学部准教授を経て現在、国立民族学博物館教授。著書に『増殖するシャーマン』（春風社）、『ヒップホップ・モンゴリア』（青土社）『憑依と抵抗』（晶文社）、編著に『辺境のラッパーたち』（青土社）など。

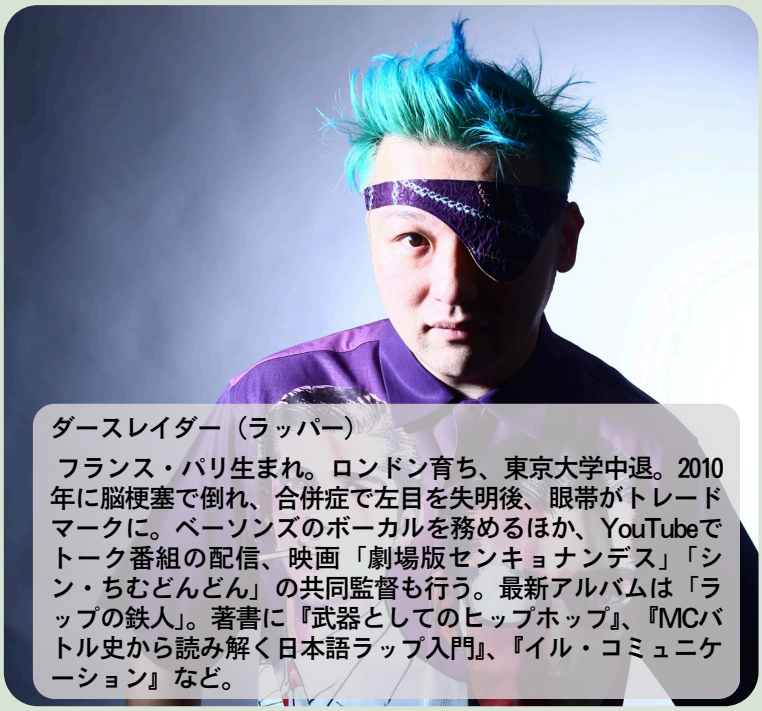


シエテ・ヌエベ（7・9）a.k.a. シマロン(逃亡奴隷)(ラッパー)

プエルトリコのヒップホップシーンを代表するラッパー。1979年、首都サン・フアンのサントゥルセ地区生まれ。アフロカリブ文化を強く反映したリリックが特徴で、プエルトリコの歴史、社会、政治問題をテーマに鋭いメッセージを発信し続けている。その言葉は若者をはじめ多くの人々に影響を与え、社会的な意識を高める役割を果たしてきた。プエルトリコ・ヒップホップの先駆者であり、米国の有名ミュージシャンだけでなく、国外ラッパーとの共演も多数ある。

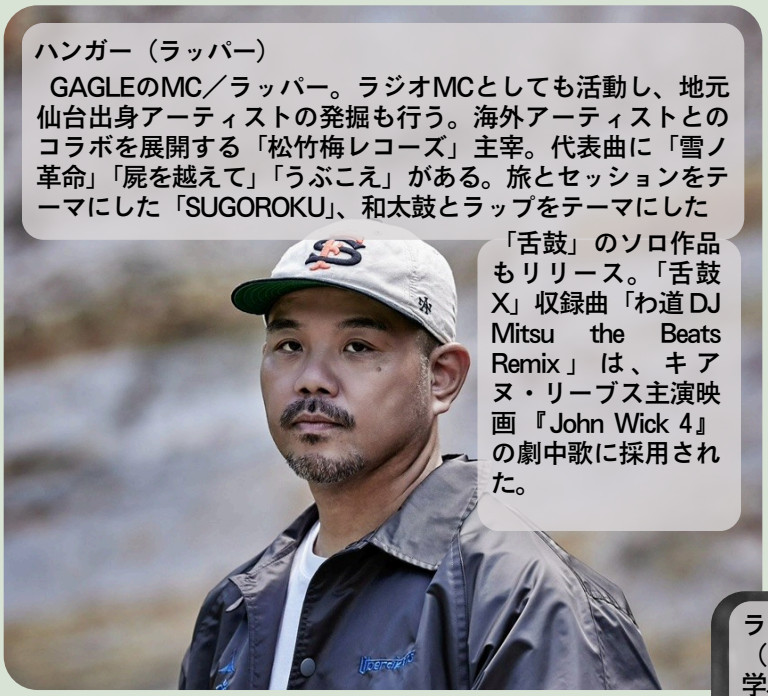
村本茜（鹿児島女子短期大学）

高校時代に兄「あきらめん」の影響を受けて2008年から「MC茜」としてラップを始め、大阪のクラブやネットで活動。大学はスペイン語学科に進学し、スペイン語ラップを愛聴する。2014年に鹿児島に移住。日本語教師として短大や専門学校で教鞭を執る一方、鹿児島大学大学院で在日ネパール人についての文化人類学研究に取り組み、現在はプエルトリコのヒップホップをテーマに博論を執筆中。ラッパーたちの楽曲や語りを通して、彼らのアイデンティティや植民地主義に対する意識を研究している。



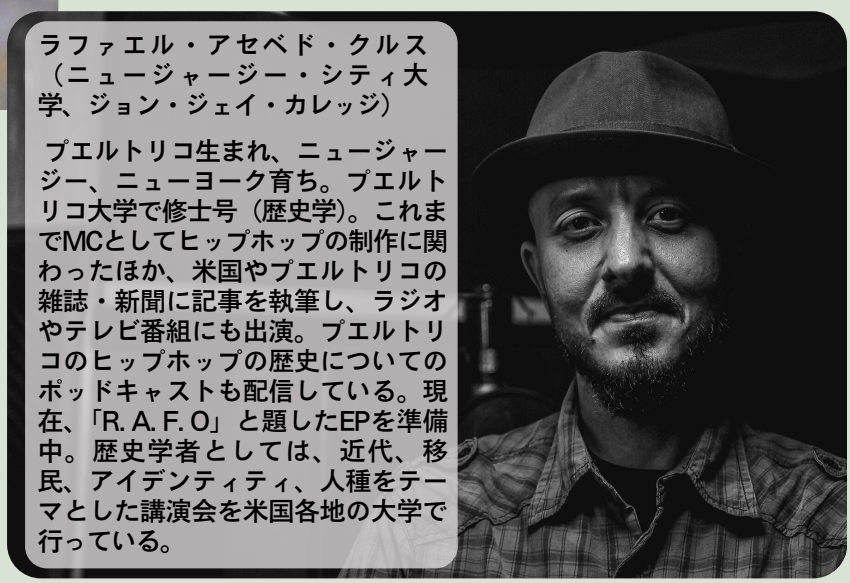
ダースレイダー（ラッパー）

フランス・パリ生まれ。ロンドン育ち、東京大学中退。2010年に脳梗塞で倒れ、合併症で左目を失明後、眼帯がトレードマークに。ベーソンズのボーカルを務めるほか、YouTubeでトーク番組の配信、映画「劇場版センキョナンデス」「シン・ちむどんどん」の共同監督も行う。最新アルバムは「ラップの鉄人」。著書に『武器としてのヒップホップ』、『MCバトル史から読み解く日本語ラップ入門』、『イル・コミュニケーション』など。



ハンガー（ラッパー）

GAGLEのMC／ラッパー。ラジオMCとしても活動し、地元仙台出身アーティストの発掘も行う。海外アーティストとのコラボを展開する「松竹梅レコーズ」主宰。代表曲に「雪ノ革命」「屍を越えて」「うぶこえ」がある。旅とセッションをテーマにした「SUGOROKU」、和太鼓とラップをテーマにした「舌鼓」のソロ作品もリリース。「舌鼓X」収録曲「わ道 DJ Mitsu the Beats Remix」は、キアヌ・リーブス主演映画『John Wick 4』の劇中歌に採用された。



ラファエル・アセベド・クルス（ニュージャージー・シティ大学、ジョン・ジェイ・カレッジ）

プエルトリコ生まれ、ニュージャージー、ニューヨーク育ち。プエルトリコ大学で修士号（歴史学）。これまでMCとしてヒップホップの制作に関わったほか、米国やプエルトリコの雑誌・新聞に記事を執筆し、ラジオやテレビ番組にも出演。プエルトリコのヒップホップの歴史についてのポッドキャストも配信している。現在、「R. A. F. O」と題したEPを準備中。歴史学者としては、近代、移民、アイデンティティ、人種をテーマとした講演会を米国各地の大学で行っている。